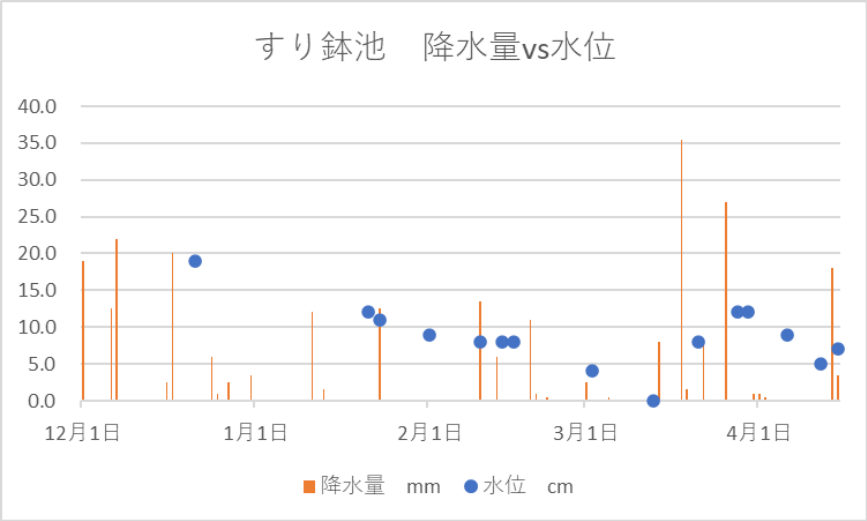
すり鉢池　在来種の里帰り

2022 年 4 月 16 日(土)
名東自然倶楽部
http://sizen.ciao.jp/index.html

昨年、2021 年 11 月 14 日(日)に「すり鉢池」の掻い掘りを行いました。

以後、すり鉢池に居た在来種を「なごや生物多様性センター」に預かって頂いていました。今年は極端に降水量が少なく、池の水位が上がって居りません。



水位は水の出口(オーバーフロー)の水位。池中央には、更に深い所があります。
(出口で 71cm が満水)

葦原の中に水が行き渡り、生物の隠れ場所と餌を供給してくれるまで水位が上がると良いのですが、当面そこまで水位が上がるとは考えられません。

一方、気温が高くなるに従って動きが活発となり、狭い所で預かって頂く方が危険な状況と判断し、里帰りを実施しました。掻い掘りに参加してくれた小学生の一部の方(今は中学生になった方もみえます)も参加して頂き実施しました。

葦の代わりに、竹の枝を束ねて池の中に投入して、臨時の隠場、餌場を作りました。折角、掻い掘りで池の中の有機物を減らしましたので、水位が上がって周囲の葦の中に水が入ったら取り出す予定です。

水位が低いので上から投げ入れることが出来ません。胴長を着て池の中に入りました。

見た目と違って、田んぼより歩き難く、なかなか水辺まで行けません。動けなくなる子も居ました。

二人がかりでレスキュー中（左の方）なかなか抜けません

バケツリレーで運んだ在来種の一部（モツゴ）

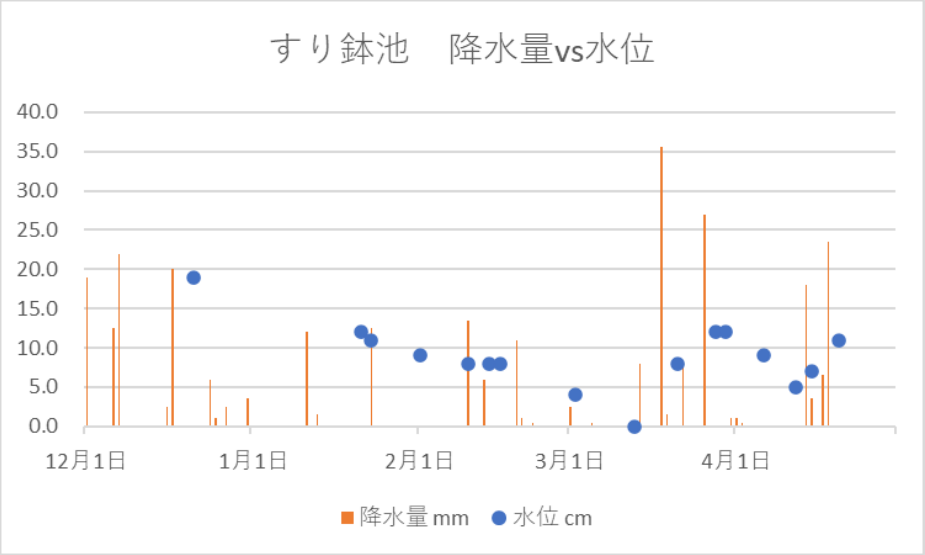
バケツからそっと在来種を流し込みました（浮いているのはコナラの雄花）

帰るのが、又大変。ゴボウ抜きの様にレスキュー中

頑張りました。お互いに協力して胴長の泥落とし。

荒落し後、乾かしています。

作業後、池干しに関する講義を行い、終了となりました。
（すり鉢池に隣接する、名東スポーツセンターの会議室にて）



在来種の里帰り後、順調に降雨があり、水位が戻りつつあります。

今後は、生物のモニター・アメリカザリガニとウシガエルの捕獲を継続的に実施します。